Aグループ 鳥居さん、岡田さん、神谷さん、早川さん

市民の定義

- ・住んでいる人(住民)
 - ・住民だが外国人(住民登録していること)
 - ・住んではないが働いている人、通学している人
 - ・住民ではない外国人
- 市民
市民等
- 「市民及び市民等」

安城市民？住民？

よその市で働いている立場→よその市民とは思われたくない、

→税金を払っていない、責任を持ちたくない、持てない

1人は、1市の市民(複数の市ではなく) → それでこそ、誇り、責任、信念が生まれる

市民の権利

(1)「知る権利」…

市民→○

市民等→○

(2)「市民参加の権利」…市の意思決定形成に関わる権利

市民→○

市民等→形成なら○(いろいろな人の意見を反映させるのは良いことだから)

(3)行政サービスを受ける権利

市民→○

市民等→「等しく」ではないが○ ←市民等は制限される

第8条

「市民及び市民等は適切な行政サービスを受けることができます」

に変更する(「市民等」を追加し、「等しく」を削除する)

市民の責務

・第9条

市民及び市民等は

2 //

3 //

4 //

5 //

追加する

Bグループ 荻野さん、桐生さん、林さん、酒井さん、鈴木さん

市民の定義

- ・市民について、「住む人、働く人、学ぶ人、事業を行なう人」
＝安城市に関る人全体で「まちづくり」の理念
 - ↑
 - 有権者、住民、市民のできること、負担に線引きが必要⇔不必要
 - ↓
- ・市民と住民の違い
- ・「一般的」(←そう思う人もいる)には「住民」＝「市民」であり理解されていないのでは？
- ・「市民」は憲法、地方自治法では使われていない言葉
 - 市の意思決定をするのは「有権者」(議員、市長に任せて)
- ・住民とか有権者にこだわらず、よりよい意見を取り入れるために、市民の定義でよいのか？
 - 市民は国を超えている「世界市民」
 - ↑
- ・どこかで区切らないと收拾がつかないのではないかと？
 - 本当の生活範囲だと住民でないと利害が共有できない(こども会費の負担など)
 - ななくず的に権利とか税金が使われるのでは？
- ・市民と町内会との関係で、町内会に入らないのはどうか？
- ・例えば外国人が果たすべき納税義務を果たしていない。あるいは課税逃れをしている割合が多いという事実がある⇔日本人でも払わない人がいる
 - 外国人は「対等に共生している存在」とはいいがたい
- ・知らない人、興味のない人が多い⇔必要なのか？

市民の権利

- ・市民参加 企画・立案・実施 → 参政権では？
 - ↑
- ・「提案権」に過ぎない
- ・公共の立場にない「市民」

市民の責務

- ・「宣言的」であれば、対になる「権利」も実態がないのではないかと？

Cグループ 小森さん、藤谷さん、佐地さん、森さん

条例の成立過程

- ・市長が提案した？
- ・あんき会と聞いている？
- ・地方政府をつくる(えらい人)
- ・憲法違反？
↑↓
- ・市長が提案、議会が決定 <条例制定について>
↑上記であれば正しい

市民の定義

- ・市民とは？

- ・市民＝安城市住民に限る
↑↓
- ・このままでよい
- ・共存・共生が大切。広義の市民が良い
- ・広い意味での市民とは？

市民の権利

- ・権利の主張で争いが？
- ・価値観の違い？
- ・習慣の違い？
- ・権利は怖い！(外国人等)
↑↓
- ・今のままで良い
- ・日本人と外国人も

市民の責務

- ・国民の責務に追加？
- ・納税、勤労、教育
- ・責務の追加は無しにしたい
↑↓
- ・そのままが良い
- ・国民の責務として考えれば良いのではないか？